

都道府県別賞一等

全ては未来の安心・安全のために

和歌山県 和歌山県立田辺中学校 一学年

岡本 優花

「生命保険って、何だろう」

私は、幼いときからずっと、「保険」というものについて全く知らなかった。とくに何も買っているわけでもないのに、お金を払っているだなんて、と考えたこともある。また、今まで生命保険を使って「助かった」というような経験は、身に覚えがないからだ。しかし、そう思っていたのも、本格的にセミが鳴き始めた今年の夏までだ。

私の祖父は、スポーツに関することが好きで、夕方に近所でランニングをしたり、スポーツ番組を見たりすることも多い。休日には弟と、キャッチボールをしているのによく見かける。ある日、祖父は、祖父母の家の近くにある山で、山菜取りに行っていた。その山はとても急な斜面だったせいか、祖父は滑って肩を痛め、思うように動かせなくなってしまったのだ。念のため、と病院で診てもらったことにした。すると、関節である腱板が骨にはさまれる「肩の腱断裂」というケガだと分かったそうだ。まだまだ弟と遊ぶということもあり、和歌山市にある病院で夏休み前に手術をすることになった。

その後のリハビリで、一年経った今でも元気な祖父。今思えば、このときに生命保険が使われていたのだと分かった。祖母によると、入院代や手術代の給付金が出たことにより、個室の病室に入れたそうだ。母にも生命保険についてたずねると、私や弟のために入っている生命保険もあるという。私たちのことも、しっかり考えてくれていたということに、家族ならではの温かさを感じられた。

この出来事を通して、何も買わずに払うお金だからこそ、何かが起こったときのリスクに備えることができ、安心・安全に過ごせるのだということが分かった。生命保険にお金を払うことは、全くムダじゃないのだ。これは、日常の中の一つの備えだと思う。学校のテストの範囲や天気は、それがある前から分かるけれど、地震はいつ来るか分からないからこそ、事前に備えるだろう。全ては「未来の安心・安全のため」にとる「備え」なのだ。

私たちが生活するとき、いつも付きまとうリスク。そのリスクから身を守るための、大切な役割をしている生命保険。今のような、安心・安全な生活が当たり前ではないということを、忘れてはならない。